今週の注目ポイント

フィナンシャル・インテリジェンス部　益嶋 裕

米国株MARKET PICK UP

MONEX

先週の米国株式市場ー地政学リスク後退で反発ー

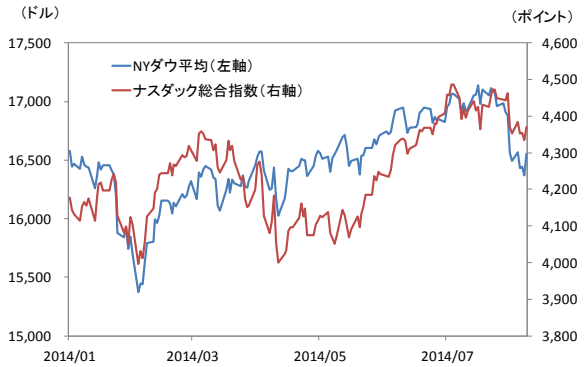
	前週終値	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日	8月8日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	16,493.37	16,569.28	16,429.47	16,443.34	16,368.27	16,553.93	+60.56	+0.37%
騰落幅		+75.91	-139.81	+13.87	-75.07	+185.66		
S&P500	1,925.15	1,938.99	1,920.21	1,920.24	1,909.57	1,931.59	+6.44	+0.33%
騰落幅		+13.84	-18.78	+0.03	-10.67	+22.02		
ナスダック総合指数	4,352.64	4,383.89	4,352.84	4,355.05	4,334.97	4,370.89	+18.25	+0.42%
騰落幅		+31.25	-31.05	+2.21	-20.08	+35.92		

＜先週の概況＞

先週の米国株式市場は小幅に反発しました。ダウ平均は地政学リスクの高まりや利上げ早期化観測から先々週に 500 ドル近く値下がりし、先週に入っても一進一退の推移が続いていましたが、週末にかけてウクライナとロシアの緊張緩和観測が高まったことなどから反発しました。

ダウ平均は前２回の調整時と同様、200 日移動平均線がサポートして反発した格好となっています。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



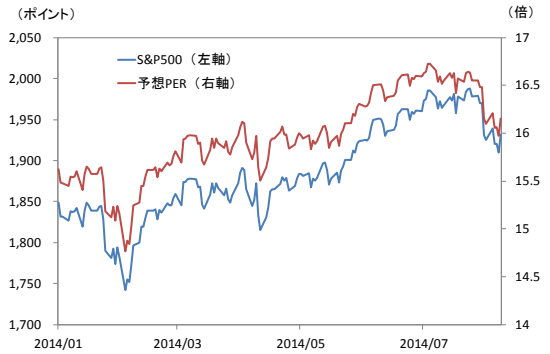
（出所）Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER（倍）	PBR（倍）	予想配当利回り
ダウ平均	14.6	2.8	2.3%
S&P500	16.2	2.6	2.0%
ナスダック総合指数	21.0	3.3	1.1%

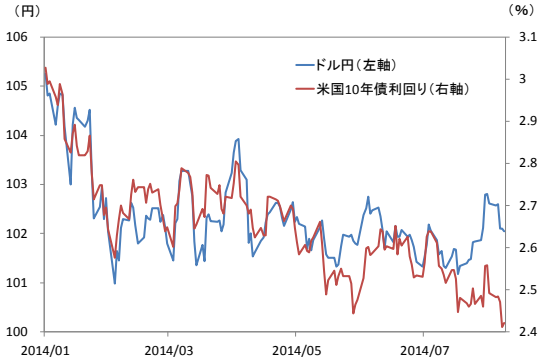
（出所）Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成（2014年8月8日時点）

S&P500と予想PERの推移



（出所）Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ドル円と米国長期金利の推移

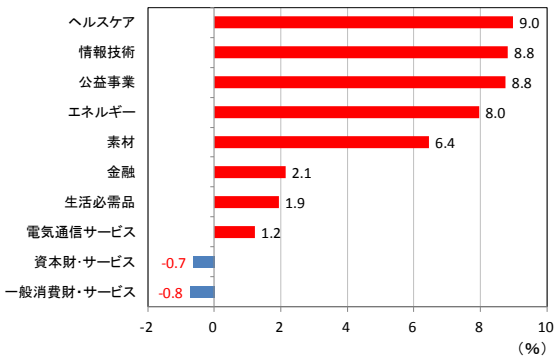


（出所）Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

Copyright (C) 2014 Monex, Inc. All rights reserved.

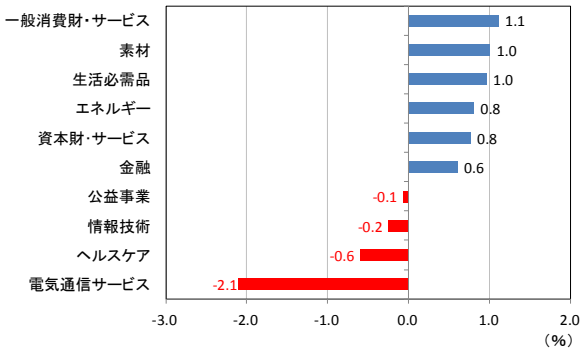
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所)Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所)Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(8/4-8/8)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率(%)
HD	ﾎｰﾑ･ﾃﾞﾎﾟ	3.4
CAT	キャタピラー	2.7
DIS	ウォルト･ディズニー	1.7
PG	ﾌﾟﾛｸﾀｰ･ｱﾝﾄﾞ･ｷﾞｬﾝﾌﾞﾙ･ｶﾝﾊﾟﾆｰ	1.6
WMT	ウォルマート･ストアーズ	1.5
DD	ｲｰ･ｱｲ･ﾃﾞｭﾎﾟﾝ･ﾄﾞｳ･ﾇﾑｰﾙ	1.3
GE	ゼネラル･エレクトリック	1.2
JNJ	ｼﾞｮﾝｿﾝ･ｴﾝﾄﾞ･ｼﾞｮﾝｿﾝ	1.2
GS	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ･ｻｯｸｽ･ｸﾞﾙｰﾌﾟ	1.2
AXP	アメリカン･エキスプレス	1.2

(出所)マネックス証券作成

値下がり率ランキング(8/4-8/8)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率(%)
INTC	インテル	-3.4
T	AT&T	-2.4
VZ	ﾍﾞﾗｲｿﾞﾝ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽﾞ	-2.3
PFE	ファイザー	-1.8
UNH	ﾕﾅｲﾃｯﾄﾞﾍﾙｽ･ｸﾞﾙｰﾌﾟ	-1.7
IBM	IBM	-1.3
MCD	ﾏｸﾄﾞﾅﾙﾄﾞ	-0.8
V	Visa	-0.6
MRK	メルク	-0.4
JPM	JPﾓﾙｶﾞﾝ･ﾁｪｰｽ･ｱﾝﾄﾞ･ｶﾝﾊﾟﾆｰ	-0.2

(出所)マネックス証券作成

＜上昇＞

先週ダウ平均採用銘柄は 19 銘柄が上昇、11 銘柄が下落しました。ウォルト・ディズニー(DIS)は５日に発表した４−６月期決算は増収増益で１株あたり利益が市場予想を上回ったことが好感され、週間ベースで 1.7%の上昇となりました。

＜下落＞

インテル（INTC）が 3%強の下落でダウ平均採用銘柄の中で値下がり率トップとなりました。特段の悪材料が出たわけではありませんが、インテルの株価は年初から３割ほど値上がりしており、地政学リスクの高まりによっていったん利益確定売りが出やすい水準にあったと考えられます。

Copyright (C) 2014 Monex, Inc. All rights reserved.

先週発表された主な経済指標

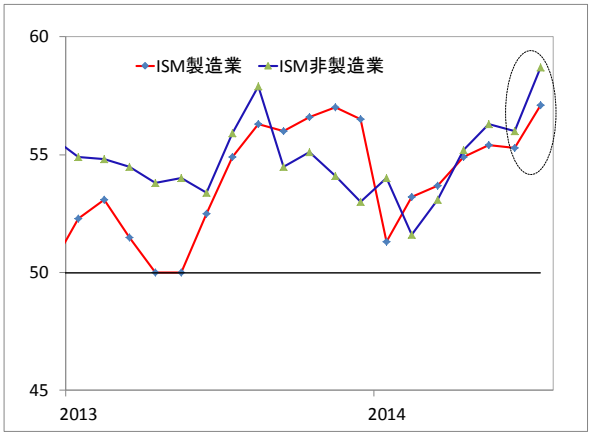
ISM 非製造業景況感指数　７月 58.7　市場予想 56.5　前月 56.0

５日に発表された ISM 非製造業景況感指数は、ヘッドラインが 58.7 と 2005 年 12 月以来約８年半ぶりの高水準で、市場予想を大きく上回りました。

指数の内訳をみてみると、ヘッドラインを構成する「新規受注（61.2→64.9）」・「入荷遅延（51.0→51.5）」・「雇用（54.4→56.0）」・「業況（57.5→62.4）」の４項目のすべてが前月から改善する好内容でした。

先に発表された製造業指数と同様に市場予想を上回る高水準で、米国の景況感が好調に推移していることが改めてはっきりした格好となりました。

ISM景況感指数（製造業・非製造業）



（出所）マネックス証券作成

今後発表される主な経済指標

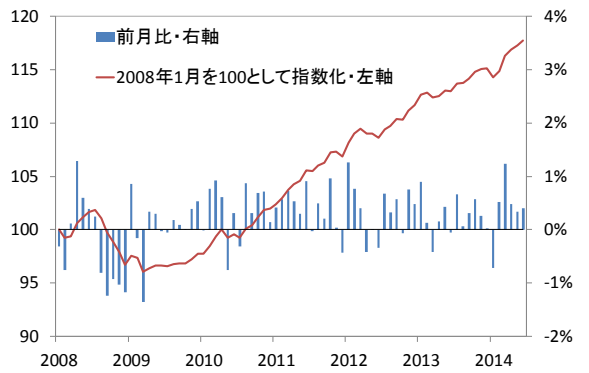
８月 13 日　小売売上高（前月比）　市場予想 +0.2%　前月 +0.2%

13 日には小売売上高が発表されます。本レポートでも何度か記しているように、米国の GDP（国内総生産）の７割は個人消費が占めており、その個人消費の先行きを示唆する指標として重要視されています。

先に発表された同じく個人消費の先行きを示す新車販売台数は堅調な内容だったため、小売売上高も堅調な内容が期待されます。

小売売上高は変動の大きい自動車やガソリンを除いた指数も重要視されています。

小売売上高（自動車・ガソリン除く）



（出所）マネックス証券作成

Copyright (C) 2014 Monex, Inc. All rights reserved.

マーケットビュー－ファンダメンタルズ面から見て引き続き押し目を拾える局面－

先週のマーケットビューでは、米国経済・企業業績とも良好な状態の中での急落だからこそ、押し目を拾って良い局面ではないかと記しました。ダウ平均は 200 日移動平均線にサポートされる格好で切り返し、週間ベースで小幅に反発しました。

経済指標欄でも記したように５日に発表された ISM 非製造業指数が約８年半振りの高水準となるなど、引き続き米国経済の堅調さを示す指標が発表されています。また、トムソン・ロイターの８月８日時点の集計によれば S&P500 採用銘柄の４－６月期決算は、全体の９割に当たる 450 社が決算発表を終了し、前年同期比 8.2%の増益と前週時点の 7.7%増益から増益率が上方修正されました。

地政学リスクの問題が根本にあるので、突発的なリスクの登場などから株価が乱高下する場面も出てくる可能性がありますが、引き続きファンダメンタルズ面からみて着実に押し目を拾っていける局面ではないかと考えています。

フィナンシャル・インテリジェンス部　益嶋 裕

利益相反に関する開示事項
マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではございません。
・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではございません。
・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではございません。
・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではございません。
・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 165 号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
一般社団法人 日本投資顧問業協会

Copyright (C) 2014 Monex, Inc. All rights reserved.